

2023 年度 事業報告

【1】学校運営

1. 概況及び新規事業について

まず最初に国際的に大きな社会危機となった新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せた状況の中、2023 年度入学式を 2023 年 4 月 6 日に従来通り無事に開催し 23 年度の事業を開催できたのも一重に皆様の日頃よりのご支援ご協力のおかげと思い感謝いたしております。

その後 COVID19 が第 5 類に再分類された 5 月 8 日以降、本学内においてもマスクを外す職員・学生が徐々に増えてきましたが未だ後を絶たないコロナに感染した学生には、ハイブリッド授業で対応しております。しかし、2023 年 8 月以降は感染状況も次第に落ち着きを取り戻しております。

それでも、多くの教育機関がパンデミックの後遺症として在校生との直接的なコミュニケーションやオープンキャンパス等の広報及び募集事業などの対外事業に問題を抱えております。それのみでなく当校の入学者数の減少は少子高齢化という社会的な課題に加えてパンデミックによって加速したコミュニケーションインフラや運営構造の時代的なアプローチに対する対応が遅れていることも当校の問題として顕在化していることも事実であり、深く反省するところであります。

しかし、状況を看過していたわけではありません。前理事長が掲げた「学生品質の向上」の新しいバージョンとして「学校品質の向上」を掲げ、22 年に理事長就任時よりすでに内在していたいくつかの課題解消プログラムを 23 年度に実現いたしました。これも皆様のご支援と学校スタッフの勤労によるものと深く感謝いたしております。

23 年度中に行った主な改善点と事業は以下の 4 項目となります。

1. 運営システムの次世代化及びデジタルプロトコルの構築

現在の人材育成において欠くべからざる資質であるデジタルスキルの習得以前に当校のデジタルシステムの導入の遅れは教育機関として近未来的な危機を孕んでおります。昨年のデジタル証明、教務スケジュール等を管理する教務ソフト「キャンパスマジック」に加え 23 年度内に事務システムのデジタル化を果たす「eValue（イーバリュー）」を導入し事務、教務のスムーズな運営と連携の強化に取り組むとともに教育環境改善とデジタル時代への意識改善を実行し学生教育にも生かすことで、ペーパーレス、SDGS 社会に置いて建設現場において機能する人材育成にも役立つ所存でございます。加えて、福岡県の補助金補助を利用して学校の PC 環境も一新し、PC、OS を最新なものいたしました。これにより就職企業のデジタル環境の違いに多様に対応する人材育成にさらなるレベルアップが図れることと思っております。

24年度はデジタルシステムのさらなるカスタマイズ、教職員の訓練、学生管理システムのDX化を推し進め将来の事務システムの一部AI化を見据えた準備をしてまいります。

2. 発信力の向上

Z世代以降の若者の情報ネットワークは教示型から撮取型に変化しています。私たちは彼らが自主的に掲げたフラグにセンシングして彼らが撮取しやすい形に編集した情報を提供しなければなりません。ツールもまた同じです。本年度の学生数が減少している理由の一つはこの発信のリデザインとツールの多様化が欠如していたことは否めません。このこともまた運営メンバー全員が深く反省しなければなりません。その改善のために昨年度HPをリニューアルいたしました。WEB制作者としてコンペ選定した読売新聞の協力を得て情報の再編集とツールの多様化にフィットしたWEBシステムを導入、携帯でもスムーズに閲覧でき5G時代にも問題なくフル稼働できるものとなりました。また、リニューアルに当たってはマーケティング的な視点での基礎分析を行い、他校の事例を参考にしながら福岡建設専門学校独自の魅力再創出を強く意識したものとしております。

3. リアル情報としての学校

学生数の劇的な減少の主因を探る中で現場に立つ教職員に意見を求めたところ、2年前に廃止した学校訪問、奨学金、推薦制度等を指摘する声内外ともに多かったとの報告を受けました。しかしながら、しっかりした検証もなく全面回帰することは迷走することにつながりかねません。そこで新規事業と評価すべき従来の事業を一時的に並走させることにして、検証期間を設けることにいたしました。

新規事業としては参加数が減少している従来型のオープンキャンパス事業を継続する一方で高校生に直接触れる機会と彼らの興味動向をリサーチするために今後の募集対象として成長が見込まれるセカンドキャリア予備軍も含めた層に向けたカルチャースクール型の実験事業を福岡市都心において実施いたしました。

具体的には9月16日に開催した「未来のための建設フォーラム」プレワークショップでのドローン講座を皮切りに、特別講座「高校生とセカンドキャリアのための建設フォーラム」を、羽部校長をコーディネーターとして計6回実施いたしました。博多駅近くの博多バスターミナルに会場を構え、場所柄もよく毎回満員の盛況で開催されました。

またこの機会に西日本新聞社のご協力で全面広告を通常予算よりも経費のかからない形で掲載いたしました。このような広報機会の創出もまた新規事業の効果と言えるものであります。

4. 労働運営環境の充実

コロナのこともあり退職者と雇用者のバランスが崩れている部分が出ておりましたが、22、23年度において是正を開始し、事務2名、建築学科教員1名を公募

し3名の教職員の配置を完了いたしました。それぞれが即戦力として活躍してくれております。結果、非常勤講師に頼っておりました学科業務も常勤教師による授業を充実することで学生管理、ケア、コミュニケーションのセンシング力の増加をはたし、今後もコロナ後の学校に対しての信頼を回復、担保していく努力を怠ることのないように邁進する所存です。

24年に入ってからの概況としては3月に2023年度卒業式をソラリア西鉄ホテルにおきまして開催することができ、卒業式後には、昨年度より実施しており好評をいただいております各分野の識者のお話を一般にも開放し行う記念講演会を併せて敢行し写真家・映画監督 宮澤正明氏による「美しい日本を写す」ー伊勢神宮式年遷宮に見る日本建築の心ー」と題した記念講演を開催いたしました。式年遷宮時のみ公開される日本建築の粋をその公式写真家である宮澤氏に作品とともに語っていただく貴重な機会となりました。

教務運営につきましては、教室の換気等に気を付けながらも、CAD 演習、測量実習といった演習・実習科目も対面授業で滞りなく実施しております。当初の事業計画通りに授業を実施し、コロナ前の学校生活を取り戻せたように思います。

また、現場見学会では、株式会社松本組様、前田道路株式会社様、麻生コンクリート工業株式会社様のご協力により、対面形式で年間4回実施することができました。

就職状況につきましては、例年通りコラボレーターズ企業説明会を2023年4月、12月の2回実施し、合計12名の学生がコラボレーターズ企業に就職内定することができ、2023年度も就職内定率100%（43名）を継続することができました。

学生募集につきましては、教職員全員で高校訪問を行なっております。また新ホームページが開設されスマートフォン対応の見やすいホームページとなりましたので最新情報を分かりやすく知らせることができるようになりました。今後、より一層活用していきたいと思っております。さまざまな試みにもかかわらず入学者が減少したことは非常に残念でございますが、一新強化された各システムを運用拡大しながら来季募集に関しましてはV字回復を目指していきたいと存じます。加えて25年メンテナンスを行なっておりませんでした校舎の修繕を昨年度より再開いたしました。これにより教育現場の環境改善が図れるものと思っております。

2. 会議の開催・学校行事等

(1) 役員会

2023年度は、偶数月に理事会を開催し、また臨時理事会を3回開催いたしました。

なお、開催日程は下記の通りとなっています。

- 理事会（6回）：2023年4月21日、6月16日（総会）、8月18日、10月20日、12月15日（忘年会）、2024年2月16日
- ※臨時理事会：2023年7月21日、11月16日、2024年1月19日

(2) 学校行事日程

2023年度は、特別講座「高校生とセカンドキャリアのための建設フォーラム」を博多駅近くの博多バスターミナルで開催しましたほか、学校行事は下記の通り実施しました。

- 2023年4月 6日 入学式（ホテルオークラ福岡）
記念講演（映画監督・本木克英氏）
- 4月10日 前期授業開始
- 4月19日・26日 第1回コラボレーターズ企業説明会
- 5月17日 現場見学会1回目（㈱松本組様ご協力）
- 7月19日 現場見学会2回目（九州芸文館）
- 8月 2日～9日 前期試験
- 8月 4日 2023年度前期シラバス・カリキュラム検証会議
- 9月16日 特別講座プレワークショップ
- 10月2日 後期授業開始
- 10月21日 特別講座「高校生とセカンドキャリアのための建設フォーラム」
- 11月11日 特別講座
- 11月15日 現場見学会3回目（㈱松本組様ご協力）
- 11月29日・12月6日 第2回コラボレーターズ企業説明会
- 12月 9日 特別講座
- 2024年1月17日 現場見学会4回目（㈱生ノクリート工業様、前田道路様ご協力）
- 1月20日 特別講座
- 2月 3日～9日 後期試験
- 2月 9日 2023年度後期シラバス・カリキュラム検証会議
- 2月10日 特別講座
- 2月17日 1年生保護者懇談会
- 3月 8日 卒業式（ソラリア西鉄ホテル）
記念講演（写真家 映画監督・宮澤正明氏）
- 3月16日 特別講座

【2】教務運営報告

1. 教務体制について

昨年度は常勤教員の減少により、時間割編成や科目担当割、学校行事の運営、学生指導（生活・進路）などのクラス担任の対応に苦慮しました。新年度からは常勤教員及び嘱託教員を採用いたしました。これで業務の煩雑さが多少改善されました。また土木科教員の募集をしておりますが応募がなく、土木科教員の募集が急務となっております。

2. 学生の資格受験状況

2級土木施工管理技術検定試験、2級建築施工管理技術検定試験とも土木科昼間2年、建築科昼間2年、建築科夜間2年全員が受験しました。建築科は昼間夜間ともに昨年度を若干上回ることができましたが、土木科昼間は28ポイントも低い結果となりました。これは学生の資格取得の意志低下・取組みにも問題があったと考えられます。前年を上回れるように資格の重要さの意識付けをして取り組みます。なお、2023年度の合格状況については下記の通りとなっております。

2023年(令和5年)資格試験結果

	土木科昼間	建築科昼間	建築科夜間	合計	全国平均	昨年度実績
2級土木施工管理技術検定 (第一次検定)	46.6%			46.6%	前期 (42.9%)	75.0%
	(7/15)			(7/15)	後期 (50.6%)	(13/16)
2級建築施工管理技術検定 (第一次検定)		72.4%	72.7%	72.5%	前期 (37.7%)	60.0%
		(21/29)	(8/11)	(29/40)	後期 (49.4%)	(21/35)

	土木科昼間	建築科昼間	建築科夜間	合計	全国平均	昨年度実績
積算士補		77.8%	81.8%	78.9%	—	67.6%
		(21/27)	(9/11)	(30/38)	—	(23/34)
CAD利用技術者試験(基礎)	50.0%			50.0%	—	50.0%
	(9/18)			(9/18)	—	(10/20)
建築CAD検定		76.0%	75.0%	75.8%	58.3%	50.0%
		(19/25)	(6/8)	(25/33)		(17/34)

3. 各学科報告

(1) 土木科屋間

■学生状況について

土木科屋間1年：総数 16名（進級者 15名、退学者 1名）

土木科屋間2年：総数 18名（卒業生 18名）

1年生については、1名が進路変更（就職）で退学しました。残りは出席が悪く補習をする学生がいましたが、全員が進級することができました。

2年生については、17名は卒業し就職希望者全員が就職しております。1名が建築科屋間へ進学しております。

■資格取得について

2級土木施工管理技術検定 第一次検定(学科試験)の合格率は46.6%(昨年度75.0%)と大幅に落ちました。学生の意識が向上するような指導を心掛けていきます。

今後は合格率100%を目指して取り組んで参ります。

その他の検定試験結果については、昨年度合格率100%であった、2級管工事・2級造園施工管理技術検定 第一次検定(学科試験)ともに受験者がいない状況です。CAD利用技術者(基礎)の合格率は50.0%(9/18)(昨年度50.0%(10/20))となり昨年と同じで例年並みとなりました。

(2) 建築科屋間

■学生状況について

建築科屋間1年：総数 29名（進級者 27名、休学者 2名）

建築科屋間2年：総数 29名（卒業生 29名）

1年生については、前期中および前期末に体調不良により2名が休学し、現在も療養中です。それ以外は出席不良により補習を行った学生がいましたが、全員進級しました。

2年生については、出席、成績が芳しくない学生もいましたが、最終的に29名全員が卒業し、就職希望者全員が就職内定することができました。

■資格取得について

2級建築施工管理技術検定 第一次検定(学科試験)の合格率は72.4%(21/29)(昨年度55.6%)と昨年から大幅に改善されました。今後も学生の意識が向上するような指導を心がけ、合格率100%を目指して取り組んでいきます。

その他の検定試験結果については、積算士補試験の合格率は77.8%(21/27)(昨年度60.0%)、2級建築CAD検定試験の合格率は76.0%(19/25)(昨年度48.0%)となり、いずれも昨年から大幅に改善されました。

(3) 建築科夜間

■学生状況について

建築科夜間 1 年：総数 11 名（進級者 10 名、退学者 1 名）

建築科夜間 2 年：総数 13 名（卒業生 13 名）

1 年生については、入学式後、仕事との両立が困難であることを理由に 1 名が退学しました。それ以外は成績、出席ともに特に問題なく、全員進級しました。2 年生については出席、成績が芳しくない学生もいましたが、最終的に 13 名全員が卒業し、就職希望者全員が就職内定しました。

■資格取得について

2 級建築施工管理技術検定については、合格率 72.7%(8/11)（昨年度 75.0%）と、全国平均 49.4%と比較して昨年に引き続き、高い合格率となりました。

その他の検定試験結果については、積算士補試験の合格率は 81.8%(9/11)（昨年度 88.9%）と例年並み、2 級建築 CAD 検定については、合格率 75.0%(6/8)（昨年度 55.6%）と大幅に改善されました。

【3】学生募集状況報告

1. 入学者推移

年度	土木科昼間	建築科昼間	建築科夜間	合計
2016	25	69	32	126
2017	22	65	29	116
2018	32	70	32	134
2019	25	58	18	101
2020	26	68	24	118
2021	24	33	12	69
2022	18	31	13	62
2023	16	29	11	56
2024	11	22	4	37

2. 入学試験実施報告

2024 年 4 月入学者数の状況は、昨年度と比較し、全体で 19 名の減少になりました。

（土木科昼間 -5 名・建築科昼間 -7 名・建築科夜間 -7 名）

入学者減少の主な要因は、高校訪問の回数減少やホームページの更新作業等の広報・募集活動が停滞していたことが一因と思われます。また、外的要因として 18 歳人口の減少、大学の入学困い込み強化の影響により昨年度同様に入学者数が減少する結果となりました。入学者の困い込みにより 2 月・3 月の受験者が減少（昨年度比-6 名）して

います。

九州・沖縄エリア、2024年度入学予定人数調査（リクルート社）では建設系専門学校への進学者減少（-25.2%）は27ある分野系統のなかでも一番の減少となっています。また、施工管理の資格制度の見直しや、経済状況の停滞なども要因となり、昨年度より社会人（高校既卒者）の入学者が減少（昨年度比-6名）したことが考えられます。

3. オープンキャンパス実施報告

12回のオープンキャンパスをすべて対面形式で実施しました。

参加動員数は68名（昨年度86名）で、減少しております。高校1・2年生の参加者もいるため、入学につながるよう早期に高校訪問等の広報・募集活動によりアプローチを図っていきます。

【4】学生就職内定状況報告

1. 学生就職内定状況

2023年度は5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、影響も少なくなった状況でした。前年度に比べると就職活動の制限が大幅に緩和され、土木科昼間13名（昨年度16名）、建築科昼間27名（昨年度25名）、建築科夜間3名（昨年度4名）の合計43名の就職希望者全員が内定しました。うち、コラボレーターズ企業には、土木科昼間求人数13名に対し6名、建築科昼間求人数27名に対し6名が内定することができました。

2. 2023年度求人状況

求人総数は462社（昨年度425社）に比べ37社の増加となりました。求人の内訳は、土木関連の求人が224社（昨年度191社：33社増）、建築関連の求人が274社（昨年度258社：16社増）です。若い人材の担い手不足の影響もあり、求人数は増加傾向にあります。